

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200223		
法人名	株式会社 中央ライフサービス		
事業所名	グループホーム おり鶴		
所在地	三重県四日市市南小松町629番地		
自己評価作成日	平成 31 年 3 月 14 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoCd=2490200223-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoCd=2490200223-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 3 月 14 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームでゆったりとした時間の中でその人らしい生活ができるホームを目指します。一人一人利用者様の声に耳を傾け希望に応えられる様に日々職員皆が努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は田園の広がる自然豊かな環境にあり、田んぼをひとつ隔て、同じ法人が運営する通所介護事業所(18人定員)がある。開設4年の新しいグループホームで、内部は優しい色の壁紙が施され、リビングは吹き抜けで明るい陽光が差し込んでいる。食堂兼ホールに2つのテーブルが置かれ、仲良し同士がソファに腰をかけて、ゆっくりとテレビを見ながら談笑している。夫婦で利用の二人は、遠目でお互いを気にかけている様子が伝わってくる。この1年で2人の管理者が退職し、本日の調査では代理を務める職員の対応で、新しい年度に向かい心機一転、新たにスタートする意欲を念じ期待したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関横にサービス理念を掲示し、新しい入職者へ説明・実践をしている。	理念は、開所以来変わらず掲げられている。利用者のその人らしい生活ができるよう、できることは自分の力を引き出す支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度の運営推進会議に自治会長様や民生員様にご参加頂き、地域の情報を頂き、交流の機会を探している。	自治会に加入し、共同作業にも参加をしており、自治会主催の夏祭りには声をかけてもらい参加をした。夏、地域の方からスイカを頂き美味しくいただいたり、ボランティアの来訪があると、隣接のデイサービスと合同で楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長様の情報を元に、これから方法を考慮したいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者様やご家族様に参加して頂き、活動報告をさせて頂き、またご意見を伺う機会としている。	年に6回の開催を目指し、そのうち2回はデイサービスと合同の会議になっている。会議ではホームの現況を報告するとともに参加者から情報を得る機会である。平成30年夏、台風が上陸し、停電・避難勧告などを経験し、防災の話し合いがもたれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議時に市の担当者様に活動報告をさせて頂き、ご意見を頂くので参考にしている。	推進会議に参加をしてもらい、防災についての指導を受けた。利用者の介護保険の更新手続きは介護支援専門員が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の情報を共有することで、身体拘束をすることのないよう、事故の予防に努めている。	職員同士が注意しあって、拘束にならないように心がけている。	平成30年度の介護保険法の改正で身体拘束適正化委員会の設置、研修の実施が求められている。早急に取り組むよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助時に入居者様の身体的観察を行い、情報を共有することにより虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居されていた方が利用されていましたが現在は後見人制度利用の方はいないので、新職員にほ理解できていない部分もあると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様とともに説明・確認しながら契約させて頂いているので実施できていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の連絡やサービス担当者会議等でご家族様と連絡を取る際に、ご意見があれば伺って対応させて頂いている。	家族から運営に関しての要望を聞くことはないが、ケアについての要望で転倒が心配との声があり、センサーマットを導入し、現在1名の方が利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議や日々の会話の中から、提案が出た際には対応している。	月に1回、定期的に職員会議を開催している。ほとんど利用者のケアについてを話し合うことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活や体調も考慮し、出来るだけ個々の負担が偏らないように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでは人員不足の事もあり、外部研修まで機会を設けることはできませんでしたが、これから機会の確保に努めたいと思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣合っているグループ施設(デイサービス)との意見交換・交流はありますが、現在それ以外の施設との交流はない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴することから始め、初期時は特に注意深く様子観察をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と話す貴重な機会を充実させるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の話をよく聞くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、当施設を自宅に近いリラックスできる場所だと感じて頂ける介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実施できていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、場所や人の話題を会話に取り入れている。	友人の訪問があったり、家族が同伴して馴染みの美容院へ行く利用者もある。また、家族が持参した写真を見ながら、なつかしい思い出話で盛り上がることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の様子観察を常に行い、声掛け・誘導を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要がある場合は実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望など普段の会話の中から情報を職員間で共有し出来る限り実施している。	話しをしたり、表情や動作などで思いや意向を把握し、知り得たことは申し送りノートで記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回 面談時の聞き取り資料を元に職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送り等で把握し実施できていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員会議での情報共有で実施できていると思う。	管理者がアセスメントをとり、サービス担当者会議を開催している。短期目標を6か月、長期目標を1年とした計画書を介護支援専門員が作成している。1か月ごとに職員のモニタリング、6か月で介護支援専門員が総合的なモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	未経験の職員もいるので時々、出来ていない時もありますが、ほぼ実施できていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々にできるだけ臨機応変な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の現存機能を出来る限り使い、生活をサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設かかりつけ医による月2回の往診により、実施できていると思う。	全員、協力医療機関がかかりつけ医となつて、月に2回、訪問診療を受けている。さらに、訪問看護ステーションから週1回、看護師の訪問がある。いつでもかかりつけ医とは相談できる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問時に細かいことも相談している。早急な質問はすぐに指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は職員が直接、様子を確認し、退院後の対応の検討をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る部分は実施出来ていると思う。	看取り指針は作成していないが、今は出来ることは出来るだけの介護をする意向で、医師・家族とも話し合い利用者の一番よい方法を考えていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は共有できていると思いますが、定期的な訓練までは至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実施できていると思う。	管理者が退職し、防災訓練の実施状況の確認は書類上できなかったが、併設のデイサービスと合同で訓練を実施している。備蓄はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いや対応を心掛けています。	人生の先輩であることをいつも念頭において、言葉使いには十分に注意して対応している。子供扱いにならぬよう、きつい言い方をしないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を尊重したいので、決めつけや思い込みで決定せず、選択できる雰囲気や普段の会話を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日々の流れは変えずに、その日の入居者様の様子をみながら、出来る部分は変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	沢山の人の中で食べる楽しみを静かに噛みしめて頂きたく、毎食時、音楽をかけ ゆったりと食事できるようにしている。	食材と献立は業者委託をして、調理は職員が作っている。メニューはボードに書いて、食べる前に利用者が読み上げている。行事の時は、それに合わせたおやつを作って提供している。土筆を取ってきて食卓に出したこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせて、過剰な介助はしないよう、職員間で話し合いながら実行している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存能力は使って頂き、日々の様子を観察しながら実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おおまかな介助時間は決まっているが、その他のタイミングはご本人の様子を見て実施できていると思う。	利用者は、布パンツ・リハビリパンツ・パットなどを使いそれぞれであるが、全員がトイレで排泄をしている。誘導しなくとも自分でトイレへ行かれる方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の習慣や体質を考えかかりつけ医とも相談し、実施できていると思う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理に入浴を勧めず、ご本人の希望も取り入れながら概ね、実施出来ていると思う。	日曜日を除いて毎日お風呂は沸かしており、週2回、午前中に入浴している。入浴剤は利用者の楽しみで、柚子をデイサービスの利用者からもらい、柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングに合わせ、就寝介助や居室誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば情報を共有し、変化の報告を呼びかけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の壁飾り作りや陶芸などで実施出来ていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の実行は職員巢の関係もあり、難しいですが本人の希望を反映していきたいと考えている。	時期に応じて周辺を散歩したり、お弁当持参でお花見に出かけたり、イチゴ狩りへ出かけ楽しんでいる。買い物支援も実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには入居者様が作った作品を飾らせて頂いたり、献立のメニューボードに季節感のある絵を描いたり落ち着くようにしている。	ホールは利用者の楽しみの空間で、高い天窓から明るい光が差し込んでいる。テレビを見たりカラオケをしたり、レクリエーションなどを楽しむ場所である。先日まで利用者のお雛様が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の席は決まっておりますが、ソファなどくつろげる席もあるのでリラックスしてみえると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みを制限はしていませんが、ご家族様の要望があれば対応させて頂いている。	居室の2部屋が和室設えになっている。編み物が得意な利用者の居室は、手製の編み物のセーターが整理して収納されている。家族から人形をプレゼントされ、棚に整理してあったり、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の名前など分かりやすく掲示して、様子を伺いながら対応させて頂いている。		